

カヌー競技における安全対策

埼玉県高体連カヌー専門部
會田 浩二（越谷東高等学校）

1 埼玉県高等学校体育連盟カヌー専門部について

・登録校について

- 県立浦和高等学校 ● さいたま市立大宮北高等学校 ● 越谷東高等学校

・大会について

- 5月・・・学総体兼関東大会県予選兼インターハイ県予選

- 6月・・・国体県予選

関東大会【山梨県精進湖（開催地固定）】

- 7月・・・国体関東ブロック

- 8月・・・インターハイ

新人大会兼関東選抜大会県予選

- 9月・・・関東選抜大会【山梨県精進湖（開催地固定）】

- 10月・・・国民体育大会

※月に数回、埼玉県カヌー協会主催による強化練習を実施

2 安全対策について

公益社団法人日本カヌー連盟 『危機管理対応マニュアル』より抜粋

通常練習時

- I 選手の健康状態に応じた、適切な練習計画のもと指導を行う。特に、ジュニア選手に対しては、保護者との連絡を密にし、体調の管理に協力を得る。
- II ウォーミングアップ、クールダウンの必要性を指導し、選手の事故防止に対する意識を高める。
- III ライフジャケットの着用を義務付ける。ライフジャケットは浮力(7kg以上)を確認した上で、確実に着用させる。
- IV 用艇は乗艇前に注意深く整備した上、浮力材も装備する。
- V 単独練習は禁止。コーチの伴漕艇や監視者を必ずつける。

VI 練習場の環境整備に努め、岩場・橋げた・船台の手すりなどでの擦過傷による事故などにも留意する。

VII 天候による水量の急変、雷などの情報を正しく収集し、危険を感じた場合には、出艇しないよう徹底する。また、練習場への往復時の交通に注意させ、乗艇練習以外の事故防止の意識を高める。

3 具体的な安全指導

- (1) 気温・水温・水面の状態・流れ・風力を観察、確認し力量にあった練習を行う。
- (2) 用艇・用具の破損箇所を確認し擦過傷によるケガを防ぐ。
- (3) 艇を運ぶ際、風や周囲に十分注意を払う。
- (4) 必ずライフジャケットを着用させる。
- (5) 単独での練習はさせない。転覆した際は、どのような状況であっても人命救助を優先させる。
- (6) 万が一、転覆した場合は艇から離れず、艇に浸水しないよう救助がくるまで艇をつかんでおく。
- (7) 沖乗りができるよう指導する。
- (8) 天候の急変には十分に注意をする。場合によっては、近くの護岸へ上がり待機する。